

幼子とともに

2024 年度 7月号

はじめに

暑い季節となりました。子どもたちは、元気にプールで遊んでいます。子どもたちは、自分自身で体調管理をするのが得意ではありません。ご家庭でもこまめに水分補給をしていただき、熱中症対策をお願いします。

気づけば、2024 年も半年が過ぎました。年を重ねると一年が早く感じると思いますが、それは経験を積み重ね、似ている景色を見ているからだそうです。子どもたちは、大人に比べて経験が浅いため、日々、違う景色をみながら刺激を受けていますから、より一日が長く感じられるということでしょうか。いずれにせよ、この夏の時期もまた、夏ならではの経験を、子どもたちと味わえたらと願っています。

シャボン玉が飛んだ

ある雨の日、ちゅうりっぷ組、年少・年中組が、玄関でシャボン玉を飛ばして遊びました。私も知らなかったのですが、シャボン玉は、雨の日の方が沢山飛ぶのですΣ（・ロ・；）ぜひ、ご家庭でも、雨の日をねらって遊んでみてください。

シャボン玉を飛ばす遊びは、決して、複雑な遊びではありません。しかし、子どもたちからは、多種多様な遊びが生まれます。小さい玉を沢山飛ばす子もいれば、大きい玉を作って飛ばす子もいます。飛ばすことよりも、壊すことを楽しむ子もいます。シャボン玉を作らず、シャボン玉を出すあの笛のようなものをただ、口にするだけでも楽しむ子もいます。

シャボン玉を飛ばすだけの遊びではありますが、多様な遊び方、楽しみ方があるのだと気づかされた次第です。この遊びは、こうでなければいけない！こうしなければいけない！これが正解だ！と大人の思いを脇に置き、子どもたちが、何を楽しんでいるのか。どのように工夫して楽しもうとしているのか。そこに視点を切り替えていくと、子どもたちの新しい成長の扉が開くのに気付けるのかもしれません。



ピンクのバッタ！！！！

最近、ネットニュースでも話題になりました、ピンクのバッタが、ゆり組のお友達によって捕獲されました！！！！本当に珍しいとのことでした。

朝、園庭に出た瞬間、ゆり組の先生が、子どものように嬉しそうに報告をしてくださいました。子どもの喜びを、自分の喜びにできることは、教師にとって、非常に大切な姿でもあります。捕獲したお友だちも、先生に喜ばれている、先生が喜んでくれた、という気持ちが、更に子どもの心を豊かに育て上げていくことでしょう。

これは決して、ピンクバッタだけに限ることではなく、越谷幼稚園の先生一人一人が、子どもの目線に立ち、子どもの心に寄り添いながら、喜びや悲しみを共にしてくださいます。自分の気持ちと同じ気持ちになってくれる先生がいることで、子どもたちに安心が生まれ、自分らしく生き生きとした生活を生み出していくのです。これからも、子どもたちの目線に立って、子どもたちの造り上げる世界の中で、子どもたちの遊びのよき助け手として、幼稚園がその働きを発揮していけるように努めていきたいと思います。その点、園長はまだまだです。「珍しい」と聞き、すぐりました（「すぐぐる」の意味）「ピンクバッタ 価格」・・・と。



はれおとこ 園長

父母の会役員会にて、次週からプールを始めることを伝え、「次週は雨マークですね」「でも、園長は晴らしますよね」とのお声を頂いた。正直、とても、不安でした(笑)でも、信じてその日を待ちました。結果、規定外の夏日！！そんな日が幾日も続き、ほぼ、毎日、プールを楽しむことができました。今はもうずっと、どや顔です(o^ー^o)

さて、これから夏が本番です。水遊びやプール遊びが、ご家庭でも盛んにおこなわれるかもしれません。熱中症にはぜひ気を付けて、遊んでいただければと思います。プール遊びで大事なことは、何よりも、「水」を楽しむ、「水の中で体を動かすこと」を楽しむ、爽快感を味わうなど、色々あるかもしれませんが、もう一つ大事なことは、「水は危険なものでもある」ということを知ることです。例えば、キャンプファイヤーや花火も同じで、ただ楽しいだけではなく、「火は危険なものである」ということを知ることでも大切なのです。

最近、危険なものは、あえて避けるようにと教えるところもあるそうですが、危険であることを知り、正しく恐れることも大切です。正しく恐れることができれば、自然と危険を避ける能力が備わり、火や水を正しく使うことにもつながります。幼稚園によっては、日曜大工を遊びの中に取り入れている園もあり、正しくものを使うために、あえて危険に見えるものを積極的に使わせるようです。かつて、越谷幼稚園でも、色々な製作をしていたようですね。今はなき、ウサギ小屋も園児たちが作ったという話も聞きました！！危険に見える遊びでも、そこから学べるものもあることも忘れずに、安全に考慮して、様々な角度から遊びを提供できればと考えています。

園長 須賀 工

栄養だより

《食べる時がいちばん幸せ》

これからますます暑い日が続いていくことが予想されますが、日々どんな食生活を過ごされていますか？お食事のことで、何かお困りの事はないでしょうか？時折、「野菜を食べてくれない」や「食が細い」などのお声を聞きます。食べてくれないわが子を目の前にして、どうすればいいものかとお考えではないでしょうか。そのこと、とてもよく理解できます。なので、今回は、子どもたちと一緒に楽しめる何冊かの本を紹介したいと思います。

- | | | |
|---------------------------|------|-----------|
| ・とびきりおいしいおうちごはん | 野村友里 | 小学館 |
| ・子どもの好きな料理ベスト230 | | 文化出版局 |
| ・卵なし、牛乳なし、砂糖なしのおやつ | 藤井恵 | Como ブックス |
| ・ひもほうちょうもつかわない平野レミのサラダブック | | 福音館書店 |
| ・ほうちょうもつかわない平野レミのおりょうりブック | | 福音館書店 |



「今食べられないものがあったても、いつか食べられるようになるよ。」と「食べないが続いて大丈夫かな？」思いは交差しますが、人は生きていく限り一生食べ続けます。おおらかな気持ちで食べることが好きになるように、食べ物に興味が出てくるような寄り添い方ができるといいなあと思います。目標を《食べる時がいちばん幸せ》と掲げて！しばらくの間、本は職員室に置いておくので、ご覧になりたいときはお立ち寄りください。

いけだ かずみ